

昭和二十五年事業報告

京
都
府
立
圖
書
館

一、總括

図書館に対する世人の認識の向上と、本館の奉仕施設の拡充とはあいまつて、本年度も躍進の記録を報告出来ることは幸である。

本年度に於て特筆すべきことは、多年の希望であつた地方分館が、峰山、宮津、綾部に開設せられたこと、並に本館内に於て、学生自由閲覧室が新設されたことである。

二、利用者

本年度一年間の利用者総数は、式拾参万五千七百四十一名で本館創立以来の最高の記録を示した。(貸出文庫並に地方分館利用者数を除く。)いまその利用者に就て過去数年間の数字をあげて回顧すると、次のような発展のあとを辿ることが出来る。

昭和十二年度(戦前)	一二九、二〇一名
昭和二十一年度	二八、六九七名
昭和二十二年	五二、五九七名
昭和二十三年	九七、三七九名
昭和二十四年	一二七、七七五名
昭和二十五年	一七七、八五四名
昭和二十六年	二三五、七四名

本年度の利用者数の内訳は

利用者数	本館	河原町分館	伏見分館	合計
開館日数	一四六、二九二	四四、九四八	四四、五〇一	二三三、五、七四一
一日平均	三二一	三二七	二七四	七五八
	四五六	一四〇	一六二	

これを二十四年度と比較してみると、一日平均八十八人の増加となつてゐる。

次に以上の数字を男女別に見ると

	本館	河原町分館	伏見分館
男	六九%	八七%	六五%
女	三一%	一三%	三五%

又、之を職業別にみると

	本館	河原町分館	伏見分館
一般	二〇%	五二%	二〇%
學生	八〇%	四八%	八〇%

蔵書構成に於て、小説隨筆の類を主としてゐる河原町分館の特色が、この数字に現はれてゐる。即ち本館と伏見分館とは通常の公共図書館の一般的傾向を示してゐるに對し、河原町分館はむしろ一般人の利用者が学生の数を凌駕してゐるのである。

三、本館圖書利用の状況

本年度の本館蔵書につき、その利用状況を昨年と比較すると二万五千七百二十一冊を増加し、総数四十四万二千三百三十冊となつてゐる。一日の取扱冊数は平均千二百五十二冊、一人平均利用冊数は二、七六冊となつてゐる。

いま、これを圖書の種類に別ち、%を以つて示すと

總記	三、六一
哲學教育	六、六〇
宗教傳説	一、七二
社會産業	九、四二

法政經濟	八、八七
理學工學	一三、一五
醫學衛生	一、八五
美術諸藝	六、一〇
文學語學	一八、九五
歴史・地誌・傳記	一〇、四七
兒童圖書	一四、八六
新聞雜誌	四、四〇
計	一〇〇%

四、藏書

本年度全館の購入図書冊数は一万三千五百九十七冊、寄贈をうけたもの百三十九冊計一万三千七百三十六冊であつた。之に對して毀損、亡失等に因る除籍冊數九百三十一冊を差引くと、本年度純増加冊數は一万二千八百五冊となる。

藏書の内訳

本館 和漢書	一六八、六一〇
洋書	七、五二九
貸出 文庫	一七、三二七
河原町分館	三、四一五
伏見分館	三、五九二
地方分館 (三館合計)	四、三五五
總計	二〇〇、四、八二八冊

五、學生自由閱覽室の新設

本館利用者のために、藏書の一部を自由に閱覽せしめること

は、かねての懸案であつたが二十五年八月七日から、とりあえず學生々徒のため自由閱覽室を設けた。図書は現在約二千四百冊でその過半は新たに購入したものである。今後も常に、良書の補充と新陳代謝に留意してゆくつもりである。利用者も極めて多く殊に土曜、日曜の両日は二百名に達してゐる。

六、兒童室

近來、市内の各学校の図書館が次第に充實の機運に向つてゐるとはいへ、兒童の要求を十分に満足せしめるには未だ程遠いのみならず、本館の兒童室としては、又、独自の使命を有してゐるので今後更に一層の充實を期してゆきたいと思ふ。今年度実施したのは、毎週土曜日に教育映画、紙芝居などを見せ、又毎月一回読書会をかねた子供会を開き兒童の読書力の養成に学校側と協力の態勢をとつて來た。又、春秋二回に新聞社、及び市内の兒童文化団体との協力によつて子供大会を開催した。

七、本館附屬貸出文庫

本年度に於ける貸出文庫の利用團體數は百二であり、貸出回數は延三百八十六回で、利用冊數は一万二千三百七十五冊に上つた。利用團體中最も多いのは青年團體で二百七回、次は官公署の六十回、学校の四十回が之に續いてゐる。又之を地域別に見ると京都市内の百五十七回が最も多く約半数に達し、次が綴喜郡の七十四回、久世郡の四十六回、船井郡の二十九回、南桑田郡の二十五回などが之に續いてゐる。

八、分館

(一)、河原町分館

河原町分館は二十四年六月六日の開設にかかり爾來一般市民から非常な歓迎と支持をうけ、特に、その藏書が小説、隨筆を主とするところに特色を持ち、従つて学生よりもむしろ一般人の利用の多いことは、一般公共図書館に対し異色とするところである。本年度中の入館者總数は四万四千九百四十八人で、一日平均百四十人、一般人と学生との比率は五十二%対四十八%となつてゐる。

(二)、伏見分館

伏見地区は本館と相当遠隔地にあり、分館要望の聲は高まるばかりであつたが、二十五年二月九日始めてその希望は實現し分館として発足した。爾來、日々閱覽者は逐次増加を続け、本年度利用者總數四万四千五百一人に達した。(内学生々徒三万五千六百五十六人で全体の八十%を占めてゐる)。一日平均の利用者は百六十二人である。

(三)、地方分館

二十五年七月遠隔の地域の文化的渴望に應ずるため此等地域の文化團體に対する貸出を第一として開設されたものであるが各館とも同地方の青年團體、婦人会、公民館等から非常によく活用されつゝある。本年度利用團體數の總計は五百四十八團體で貸出冊數は一万七千五百六十二冊に達した。

	利用團體數	利用冊數	一團體平均冊數
畿部地方分館	一七五	六、六九七	三八
宮津地方分館	二二一	五、七五二	二六
峰山地方分館	一五二	五、一三三	三三
計	五四八	一七、五六二	三二

九、全國圖書館大會

昭和廿五年五月二十四日より三日間全國圖書館大会が京都に於て開催された。会場は、第一日は京都府立図書館、第二、三日は京都大学であつた。來会者は七百名を越へ図書館界空前の盛況であつた。

一〇、經費

本年度決算額は九百四十二万八千九百五十五円であつて、その内訳は人件費四百九十九万五千九百四円、図書購入費三百五十六万二千五百四円、その他百六十七万一千三十六円である。

京都府立圖書館一覽

本館

(京都市左京区岡崎成勝寺町九)
電話吉田⑦二四五〇番・六九番

- 一、創立 明治三十一年四月一日
- 二、本館の建築 明治四十二年二月二日竣功
- 三、職員 三十八名(分館を含む)
- 四、蔵書 (昭和二十五年三月三十一日現在)

本館 和漢書 一六七、〇四八册
洋書 七、五二九册

貸出文庫 一四、〇七五册
河原町分館 三、〇四二册
伏見分館 二、六〇二册

五、閱覽室座席 大閱覽室 二五〇
學生參考室 六〇
兒童室 三三五

六、目錄の種類 書名目錄、分類目錄
七、閱覽狀況

昭和十二年度(戰前)
昭和二十一年度 二二九、二〇一名
昭和二十一年度 二八、六九七名
昭和二十一年度 五二、五九七名
昭和二十二年度 九七、三七九名
昭和二十三年度 一二七、七七五名
昭和二十四年度 一七七、八五四名
(分館の分 四四、六七五名を含む)

八、利用者 (昭和二十四年度)

利用者數		本館		河原町分館		伏見分館				
一般	一三三、一七九	三八、六六七	六、〇〇八	學生	一八%	二一、四%	兒童	六九%	四九、七%	七八、六%
兒童	一三%	二七、五	四三〇	開館日數	三二五	二七五	四三〇			

昭和二十五年九月一日現在

分館

一、河原町分館 (中京区河原町通蛸薬師 丸善支店内)

昭和二十四年六月六日開館

面積 二八坪

閱覽室座席 五〇

蔵書冊數 三、〇四二册

從事員 三名

開館時間 午前十時—午後五時

休館 每月末日、祝日

特色

- 一、繁華街に在ること
- 二、書店の地下室を利用すること(賃借)
- 三、自由接架式且つ無料
- 四、設備費の低廉であつたこと(備品費約十万円、図書費約七十五万円、計 八十五万円)
- 五、蔵書は小説、隨筆の類を主としたこと
- 六、利用者としては一般人の利用が多いこと(學生と一般人と殆ど同率)

二、伏見分館 (伏見区大手筋通南都町 伏見信用組合二階)

昭和二十五年二月九日開館

九、本館図書利用の状況

昭和二十四年度の本館図書の利用総冊数は四一六、六〇九冊で一日平均一、二七五冊、一人平均利用数は最近三・一冊に達した。

一日平均	四一〇	一三三	一三二
女子数	四三、三八八	四、六〇三	一、一五一
	(三二%)	(二%)	(九%)

十、貸出文庫

貸出先 (利用登録団体)

0 総記	二・六%
1 哲学	五・一%
2 歴史	一・三%
3 社会科学	一九・〇%
4 自然科学	一〇・〇%
5 工学工業家事	五・三%
6 産業	四・〇%
7 美術	六・七%
8 語学	二・〇%
9 児童	一七・〇%
新聞雑誌	六・〇%
児童雑誌	一〇・〇%
児童物誌	六・〇%

(く除を分の覧閱由自は誌雜聞新)

貸出回数	一五〇
貸出冊数	四九五
貸出冊数	一五、三一二冊

十一、閲覧時間 午前九時—午後九時

十二、休館日 毎月末日、祝日

十三、其他の施設

- イ、良書解説講座
- ロ、子供お話の会 (毎週土曜日)
- ハ、図書館研究講座
- ニ、京都出版文庫

十四、予算

(昭和二十五年度)

総額	八、六六二、〇〇〇円
内	
人員費	三、三〇〇、〇〇〇円
図書費	三、八九二、〇〇〇円
其他	一、四七〇、〇〇〇円

面積 六〇坪

座席 椅子席三〇、長椅子席六〇人分

蔵書冊数 二、六〇二冊

従事員 三名

開館時間 午前十時—午後五時

休館日 毎週金曜日

特色

- 一、繁華街に近いこと
- 二、金融機関の二階を賃借してゐること
- 三、設備費の低廉であつたこと(河原町分館と略同額)
- 四、自由接架式且つ無料
- 五、将来約二万冊程度の図書館に育成の予定

三、地方分館

- 峰山地方分館 (中 郡峰山町) 七月二十一日設置
- 宮津地方分館 (興謝郡宮津町) 六月二十三日設置
- 綾部地方分館 (何鹿郡綾部町) 七月十七日設置

これらの地方は何れも京都市より二三十里の遠隔の地にあり従来貸出文庫並に巡回文庫を利用して居たが、今回分館を設置して一層読書の便益を計ることとした。

- 設置の場所 それぞれの町立図書館に併設
- 従事員 各館一名
- 蔵書冊数 各館約千三百冊
- 貸出の方法 団体貸出、無料